

キリストの天の祭司職は、諸召会に供給して、勝利者たちを生み出す

聖書：啓第2章—第3章

I. キリストの天の祭司職は、語る務めです：

- A. キリストは神に語ってわたしたちのためにとりなし、またキリストはわたしたちに語って祭司の奉仕を供給します——ヘブル 7:25. 啓 1:16, 20. 2:1 前半, 7. 参照、マラキ 3:1. ヘブル 1:2：
1. いまだかつて、神を見た者はいません。神の言としての（ヨハネ 1:1, 14）、また神の語りかけとしての御子が、神の完全な表現、説明、解釈をもって神を明らかに示されました（18節）。
 2. 啓示録がわたしたちに告げているのは、神の王国のための戦いにおいてできえ、キリストが神の言であって、神の定められた御旨のために語るということです——啓 19:13。
- B. キリストは諸召会のただ中を歩くことによって、それぞれの召会の状態を知るようになります。彼は諸召会をそのように巡ることによって、あらゆる状況を徹底的に理解します。それから、彼は見るものにしたがって、わたしたちに語ります——2:1, 7。
- C. 彼は歩くことにおいてキリストであり、語ることに於いてその霊です。七つの書簡のそれぞれの開始において、主が諸召会に語っていますが（1, 8, 12, 18節. 3:1, 7, 14）、その結びにおいて、その霊が諸召会に語っています（2:7, 11, 17, 29. 3:6, 13, 22）。歩いているキリストは語るその霊となります。
- D. 主の祭司の語りかけの性質は、金の燭台を整え、満たすことです：
1. 旧約では幕屋の中に燭台がありました。毎朝、ともし火は焦げた芯を切り取ることによって整えられました（出 30:7）。それに加えて、ともし火には油が供給されました（27:20）。
 2. 整えることは、もはや明るく燃えることのできない焦げた芯の端を切り取ることです。油を加えることは、その霊を供給することです。
 3. 啓示録第2章と第3章において、わたしたちの大祭司は七つの燭台を整えており、必要とされないものを、また輝きを妨げるものを切り取ります。同時に彼は、必要とされる油を、また燭台を明るく燃やす油を供給しています。

II. 主の語りかけは、宗教を切り取ります——啓 2:9：

- A. 今日のキリスト教は、すでにユダヤ教化しています。ユダヤ教と召会には、四つの主要な点において、すなわち、宮、律法、祭司、この世的な約束において、多くの本質的な違いがあります：
1. ユダヤ教には物質の宮がありますが、召会の中の宮は霊の宮です。ユダヤ教では、礼拝する者と礼拝の場所は二つの異なるものです。召会には何の礼拝の場所もありません。なぜなら、礼拝の場所が礼拝する者であるからです

——エペソ 2:21-22. ヨハネ 4:24. I コリント 3:16. 6:19. II コリント 6:16.

2. ユダヤ教には、律法、すなわち、日常生活のための原則の標準があり、それは石の板に書かれたものです。召会においては、聖霊が内住の命の法則であり、それはわたしたちの心に書き記されたものです——ヘブル 8:10。
 3. ユダヤ教には祭司という中間階級がありますが、召会ではすべての信者が神の福音の労苦する祭司であり、それは聖なる祭司の体系、また王なる祭司の体系です——ローマ 15:16. 啓 1:6. I ペテロ 2:5, 9。
 4. ユダヤ教にはこの世的な約束と地的な祝福がありますが、召会には天的な約束と霊的な祝福があります——エペソ 1:3. ガラテヤ 3:14. 参照、マタイ 16:24。
- B. 「外見上のユダヤ人である者がユダヤ人ではなく、また外見上の肉における割礼が割礼ではないからです。むしろ内側でユダヤ人である者こそユダヤ人であり、また割礼は心の割礼であって、文字においてではなく、霊においてです。そして、その人の称賛は人からではなく、神から来るのです」——ローマ 2:28-29. 参照、ピリピ 3:3. ガラテヤ 3:7, 14, 16, 29。

III. 主の語りかけは、世俗的なものを切り取ります——啓 2:12-17 :

- A. サタンの座は、この世の中に、すなわち、彼が住んでいる場所、彼が支配している領域の中にあります。この世的な召会は、この世との結合の中に入ってしまったので、サタンの座がある所に住んでいます—— 13 節. 参照、ヨハネ 12:31-33. 14:30。
- B. この世的で墮落した召会は、バラムの教えを保持しているだけではなく、ニコライの者たちの教えをも保持しています。バラムの教えは、人々をキリストのパーソンから偶像礼拝へと、またキリストを享受することから霊的な姦淫へとそらします。ニコライの者たちの教えは、キリストのからだの肢体としての信者たちの機能を破壊し、こうして、主の表現としての彼のからだを無にします。前者の教えはかしらを見無視し、後者はからだを破壊します——啓 2:14-15。
- C. 召会がこの世の道を行くとき、勝利者たちは進み出て、至聖所にある神の臨在の中に住みます。そこにおいて、彼らは隠されたキリストを彼らの日ごとの供給のための特別な分け前として享受します。もしわたしたちが今日、主を追い求め、この世的な召会の墮落に勝利を得て、主の特別な分け前を享受するなら、隠されたマナとしての彼は、来たるべき王国においてわたしたちの褒賞となります—— 16-17 節。

IV. 主の語りかけは、背教の召会における邪悪なパン種を切り取ります——啓 2:18-29 :

- A. イゼベルという女は、マタイ第 13 章 33 節において主によって予言された女と同じです。そこにおいて女は、パン種（邪悪な、異端の、異教的なものを表徴する）を、きめの細かい小麦粉（神と人との満足のための穀物のささげ物としてのキリストを表徴する）に加えました。
- B. この女は、啓示録第 17 章の大遊女であり、忌むべきものと神聖なものを混ぜ合わせています。アハブの異教の妻であるイゼベルは、背教の召会の予表です

—— 2:20. 列王上 16:31. 19:1-2. 21:23, 25-26. 列王下 9:7.

C. わたしたちはバビロンの原則に、すなわち、背教の召会の原則に警戒する必要があります。中途半端で、絶対的でないどのようなものもバビロンと呼ばれます。わたしたちは、神にわたしたちを照らしていただく必要があります。それによって、わたしたちは彼の光の中で、彼に対して絶対的でない、わたしたちの中のあらゆるものを裁きます——啓 3:16-19. 参照、民 6:1-9 :

1. バビロン（ヘブル語は「バベル (Babel)」）の原則とは、人の能力によって地から天に何かを建て上げようとする人の努力（れんがで表徴される）です——創 11:1-9. I コリント 3:12.
2. バビロンの原則とは、偽善です——啓 17:4, 6. マタイ 23:25-32. 6:1-6. 15:7-8. ヨハネ 5:44. 12:42-43.
3. バビロンの原則とは、自分をやもめと見なさず、自分に栄光を帰し、ぜいたくに過ごすことです。ある意味で、キリストにある信者たちは、現在の時代におけるやもめです。なぜなら、彼女たちの夫であるキリストが、彼女たちと共にいないからです。わたしたちの愛する方がこの世におられないので、わたしたちの心はここにありません——啓 18:7. 参照、I コリント 16:22. 啓 22:20. ルカ 12:34. I テモテ 6:6-10.
4. バビロンの原則とは、遊女の原則です。バビロンの目的とは、人が自分のために名を挙げて、神の御名を否むことです。召会はキリストと結婚した清純な処女として、夫以外のどのような名も持つべきではありません——創 11:4. 啓 3:8. II コリント 11:2. I コリント 1:10.

V. 主の語りかけは、なまぬるさを切り取ります——啓 3:14-22 :

A. 「わたしはあなたのわざを知っている。あなたは冷たくもなく熱くもない。わたしは、あなたが冷たいか熱いかであってほしい。そのように、あなたはなまぬるくて、熱くも冷たくもないので、わたしはあなたをわたしの口から吐き出そうとしている」—— 15-16 節。

B. ラオデキヤは、変質したヒラデルヒヤです—— 14-22 節 :

1. 兄弟愛が失われるとき、ヒラデルヒヤは直ちに「人々の意見」（「ラオデキヤ (Laodicea)」の意味）へと変わってしまいます。
2. ラオデキヤは、なまぬるさと霊的な高ぶりによって特徴づけられます。霊的な高ぶりは歴史からやって来ます。ある人たちはかつて富める者であったので、自分たちがなおも富める者であると思っています。かつて主は彼らに対してあわれみ深く、彼らはその歴史を覚えているのですが、今やその実際を失ってしまいました。
3. ラオデキヤは、あらゆるものを知っているが、実際には何についても熱心ではないという意味です。あらゆるものを持っているというのは名だけで、どのようなものに対しても命を犠牲にすることができません。それは以前の栄光を覚えていますが、神の御前での現在の状態を忘れてしまっています。
4. もしわたしたちがヒラデルヒヤの方法において継続し、ラオデキヤのなまぬ

るさから救われたいのであれば、神の御前でへりくだることを覚えていなければなりません——イザヤ 66:1-2. 57:15。

- VI. 祭司は燭台を整えることに加えて、また油をもってともし火を満たしました。命の木から食べることに、隠されたマナを食べること 主と共に宴席を持つことはみな、その霊で内側が満たされることです——参照、ゼカリヤ4:11-14：
- A. 啓示録が啓示しているのは、三一の神の強化 (1:4. 3:1. 4:5. 5:6) が、墮落した召会を、命の木、隠されたマナ、宴席としてのご自身の享受に連れ戻して、神の新約エコノミーを終結させるということです。
 - B. 「勝利を得る者には、神のパラダイスにある命の木から食べさせよう」 (2:7)。命の木から食べることは、内側での最上の満たしです。
 - C. 「勝利を得る者には、あの隠されたマナを与えよう」 (17 節)。隠されたマナを食べることは、満たされて、供給されることです。
 - D. 「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸を開くなら、わたしは彼の所に入って行き、彼と共に食事をし、彼はわたしと共に食事をするであろう」 (3:20)。主と共に宴席を持つことによって、内側で満たされることが起こります。
- VII. キリストの大祭司の奉仕によって、宗教、世俗的なもの、邪悪、なまぬるさという暗やみのものはすべて切り取られます。またキリストの天の祭司職によって、命の木、隠されたマナ、天の宴席の天的で神聖な要素がわたしたちに供給されます。この天の務めの結果は、新陳代謝的な造り変えであって、それはわたしたちを宝石とならせ、神の住まいを建造します——ローマ 12:2. II コリント 3:18：
- A. 主の天の奉仕と顧みにはすべて、わたしたちを勝利者たちにするという目的があります——啓 2:7, 11, 17, 26-28. 3:5, 12, 20-21。
 - B. 命の木の養い、隠されたマナの養い、天の宴席の養いは、燭台を構成する神聖な要素となります。
 - C. こういうわけで、あらゆる地方召会は燭台であり、あらゆる地方召会には勝利者たちがいるようになります。これらの勝利者たちは燭台を構成します。燭台は最終的に、地方召会の中にいる勝利者たちです。
- VIII. 主イエスが世界情勢を案配し、それによって神の民が前進している間に、彼はまた天の務めを執行し、天の豊富、神聖な要素をもって、神を愛し追い求める者たちに特に供給します。それは彼らが勝利を得る水準に保たれるためです。神を愛し、キリストを追い求めるこれらの者たちを支えるには、キリストの天の務めを必要とします——使徒 5:31. ヘブル 7:25. 8:2。